

大分で大型木造パネルの戸建て住宅上棟

同パネル工法は、成され、一般的な建物柱、横架材と耐力壁、サッシ、断熱材、接合金物、防水紙などで構成される。木の組合せが可能である。

三菱商事建材など

地元のビルダー、施工業者などでも施工は問題なし。三菱商事建材から指導員なども派遣される

大分市で、大型木造パネルによる戸建て住宅の上棟が行われた。同パネルは三菱商事建材（東京都、浴宏社長）が開発した汎用部材によるオーブン工法で、各種性能を担保しながら工期が早くなる。部材プレカットや施工は地元企業で対応でき、国産材も活用できることなどから注目を集めている。今回の施工場所は三叉路の角地で、パネルを持ち込むには条件が良い土地とはいえないが、小型クレーンとパネル運送トラックがあり、次々に組み上げられていった。

国産材利用も可能で高い関心

工務店の競争力向上、職人不足を解消

京都、全国に5工場と生産提携で合意し、7月から全国での本格的な材工販売を開始している。

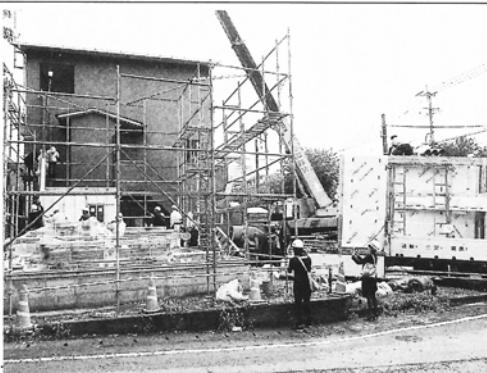
今回の物件は、ビル

ダードが地元の丸萬産業（大分市）、パネル施工はKYE（福岡市）、パネル受注・プロセス（大分市）、パネル内面などの現状を確認する戸建て住宅が建設されている。

今春に大分市では、大分県では「地域材パネル工法」による地場工務店活性化、国産材活用の可能性を摸索しており、同工法を普及するための「大分物語協議会」も設立された。12月には熊本市でセミナーを行う予定。

熊本地震により住宅の耐震性能への関心が高まるなか、将来的には新設住宅着工戸数の減少、大工・職人の不足などが懸念されている。そのなかで大型木造パネル工法は「地場工務店が、今後、全国

の高い製品を供給することができる。例えば、国産材の多量使用、さらには木材業界、行政などから多くの視察者が集まり、関心の高さが上がった。国産材活用についても、三菱商材として付加価値を高められた供給につながる可能性もあるとして、普



三菱商事建材は過去2年ほど試験販売を続けており、九州内でも数棟の建

ていている。そのなかで大型木造パネル工法は「地場工務店が、今後、全国の有力ビルダーなどと競合していくうえで競争力を持てる工法になる可能性があるので

はないか」（県担当課）。

上棟時には地元の建材の多量使用、さらには木材業界、行政などから多くの視察者が集まり、関心の高さが上がった。国産材活用についても、三菱商材として付加価値を高めた供給につながる可能性もあるとして、普